

「甚い名が變るねんなア」

「別に變ると云ふ事は無いが所によつて名が違ふ、大阪で南京を京でかぼちや、東で唐茄子と云ふそ  
うな、處によつて唱なまへが變る、浪花の蘆も伊勢の濱萩はまをぎと云ふでな」

「妙な事を云ふねんな……買えへんわい、其方へ行け」

「マアあんたはん大いお聲どすなア」

「いつかい、コラいつかいと云はずに大きいと云へ」

「そんな事をお云ひたかて、京の言葉や仕方がないえ」

「仕方がないえて、京がどれだけ偉いのや」

「京は王城の地どすえ」

「青物ばかり食ふて往生の地ぢや」

「マアあんな事をお云る、京は一條から九條まで法華經普門品が埋めておすえ」

「そんな物埋めんとちよつと石を埋め、歩きにくいわい」

「あんな事をお云る、京の御所の砂をお掴みてみ」

「何んぞになるのか」

「どんないつかい瘡せきりでも落るえ」

「瘡が落る……大阪の造幣局のお金をお掴みてみ」

「瘡が落るんどすか」

「首が落るわい」

「オイ、そんな無茶を云ひないな」

「負るのん嫌いや」

「なんぼ負るのん嫌いでも」

「買えへんわい」

「買ふて貰えへんえ」

「買ふかい」

「おちりにあんぽんたんはどうどすえ、卷壽司すしの美味おいしいはよろしおすか」

「ずいきは入つておすか」

「そんな事を尋ねないな」

「京の奴がものを云ふと生たれて居るのんで腹が立つ」

「そんな事を云ふたかて仕方が無い、昔から云ふたある、郷に入つては郷に従ひ、所に入つては所に  
従ふと云ふ事がある、そふお前の様に云ふもんや無い」